

令和 6 年度

石巻市自然環境確認調査業務報告書

令和 7 年 2 月

特定非営利活動法人 海の自然史研究所

目次

1.業務の概要	1
1-1 業務の目的	1
1-2 業務の概要	1
1-3 業務の項目	2
2.業務工程	2
2-1 業務工程	2
2-2 調査協力者	2
2-3 調査方法	2
3.調査結果	4
3-1 調査地点選定	4
3-2 植生調査	5
3-3 植物相調査	7
3-4 各区域の植生状況について	7
巻末資料	12

1.業務の概要

1-1 業務の目的

石巻市の多様で豊かな自然と市民との共生を図るため、自然災害および時間の経過や開発などにより変化していく地域の自然環境を正確に把握することを本業務の目的とする。また、生物多様性保全の観点から、市内における希少な植物群落の保全活動とその効果の検証のための情報の蓄積に資する。

なお、本業務は石巻市環境基本計画のリーディング・プロジェクトのひとつとして平成19年度から継続的に実施している。

1-2 業務の概要

1) 業務名

令和6年度石巻市自然環境確認調査業務

2) 業務対象区域

平成9年度及び平成10年度の石巻市自然環境確認調査で実施した17ブロックの調査箇所から、観察会など環境教育活動として利用できる地点が選定されており、選定した地点は調査面積や同一エリア等を勘案し、5ブロックに編成されている。

令和6年度の植生調査箇所は、この5ブロックのうち、籠峰山、上品山の1ブロックとした。

3) 履行期間

令和6年6月21日 ～ 令和7年3月7日まで

4) 委託者

石巻市市民生活部環境課

5) 受託者

特定非営利活動法人 海の自然史研究所

〒986-0781 宮城県本吉郡南三陸町戸倉字坂本 21-1

TEL・FAX：0226-25-7848

1-3 業務の項目

- 1)調査地点選定
- 2)植物相調査
- 3)植生調査

2.業務工程

2-1 業務工程

- 6 月 下見による植生調査地点候補の選定
- 10 月 植生調査および植物相調査
- 10 月～12 月 標本同定
- 1 月 報告書作成および提出

2-2 調査協力者

及川尚志（学士（農学））

2-3 調査方法

1) 調査地点選定

今年度は5つあるブロックのうち、ブロック3（籠峰山・上品山）を調査地点候補として下見を実施した。

2) 植生調査

籠峰山および上品山のそれぞれ代表的な箇所について、植物社会学的な手法を用いて調査を行なった。

3) 植物相調査

籠峰山および上品山の植生調査地点の他、その周囲を任意に踏査した際に出現した植物種を記録した。この記録と植生調査票の記録をもとに、植物目録を作成した。植物目録は、籠峰山と上品山の2区域としてまとめた。重要種の選定基準は表1に示す通りである。なお、植生調査及び植物相調査では原則として維管束植物を対象とした。

表 1 重要種の選定基準

選定基準		カテゴリー
I	「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号)	・ 特別天然記念物 (特天) ・ 天然記念物 (国天)
	「宮城県文化財保護条例」(昭和 50 年条例第 49 号)	・ 県指定天然記念物 (県天)
	「石巻市文化財保護条例」(平成 17 年条例第 128 号)	・ 市指定天然記念物 (市天)
II	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成 4 年法律第 75 号)	・ 国内希少野生動植物種 (国内) ・ 緊急指定種 (緊急)
III	「環境省レッドリスト 2020」 (令和 2 年、環境省)	・ 絶滅 (EX) ・ 野生絶滅 (EW) ・ 絶滅危惧 I 類 (CR+EN) ・ 絶滅危惧 I A 類 (CR) ・ 絶滅危惧 I B 類 (EN) ・ 絶滅危惧 II 類 (VU) ・ 準絶滅危惧 (NT) ・ 情報不足 (DD) ・ 絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)
IV	「宮城県の希少な野生動植物-宮城県レッドリスト 2024 年版-」 (令和 6 年、宮城県)	・ 絶滅 (EX) ・ 野生絶滅 (EW) ・ 絶滅危惧 I 類 (CR+EN) ・ 絶滅危惧 I A 類 (CR) ・ 絶滅危惧 I B 類 (EN) ・ 絶滅危惧 II 類 (VU) ・ 準絶滅危惧 (NT) ・ 情報不足 (DD) ・ 絶滅のおそれのある地域個体群 (LP) ・ 要注目種 (要)

3.調査結果

3-1 調査地点選定

今年度の調査にあたり石巻市環境課と協議を行い、ブロック 3 の籠峰山および上品山を調査地点候補として、植生調査に進めるための事前確認を行った。

① 籠峰山

石巻緑のハイキングロード（籠峰山～上品山～水沼山～京が森）上にある。このルートは、「恵まれた石巻地方の自然に触れながら、子供から中・高齢者が気軽に登れる登山コースをつくろう」と稲井地区の地権者と住民、登山愛好家、一般市民の協力を得て平成 5 年度に整備されており、石巻市稲井地区の標高 200～400m 級の馬蹄形状の峰々を連なる全長 20 km 余のハイキングコースで山ツツジ等の群生する風光明媚なところである。

② 上品山

籠峰山と同様に、石巻緑のハイキングロード上にある。

事前確認の結果、籠峰山は頂上付近に草地が広がっており、そのうち草丈の低い場所および高い場所の 2 箇所が、上品山は頂上から東へ進んだ林道周辺がそれぞれ調査地点として適していると考えられたため、この 3 箇所を調査箇所として決定した。

【計画時】

ブロック 3	籠峰山 2 箇所、上品山 1 箇所
--------	-------------------



【実施】

ブロック 3	籠峰山 2 箇所、上品山 1 箇所
--------	-------------------

3-2 植生調査

3 区域での植生調査地点数は①-1 籠峰山 1、①-2 籠峰山 2、②上品山のそれぞれ 1 箇所ずつ、計 3 箇所を実施した。植生調査地点一覧を表 2 に、地点の分布を図 1 に、地点ごとの植生調査票を巻末資料に示す。

表 2 植生調査地点一覧

地点番号	調査区域	群落名
①-1	籠峰山 1	シバ群落
①-2	籠峰山 2	ススキ群落
②	上品山	アカマツ群落

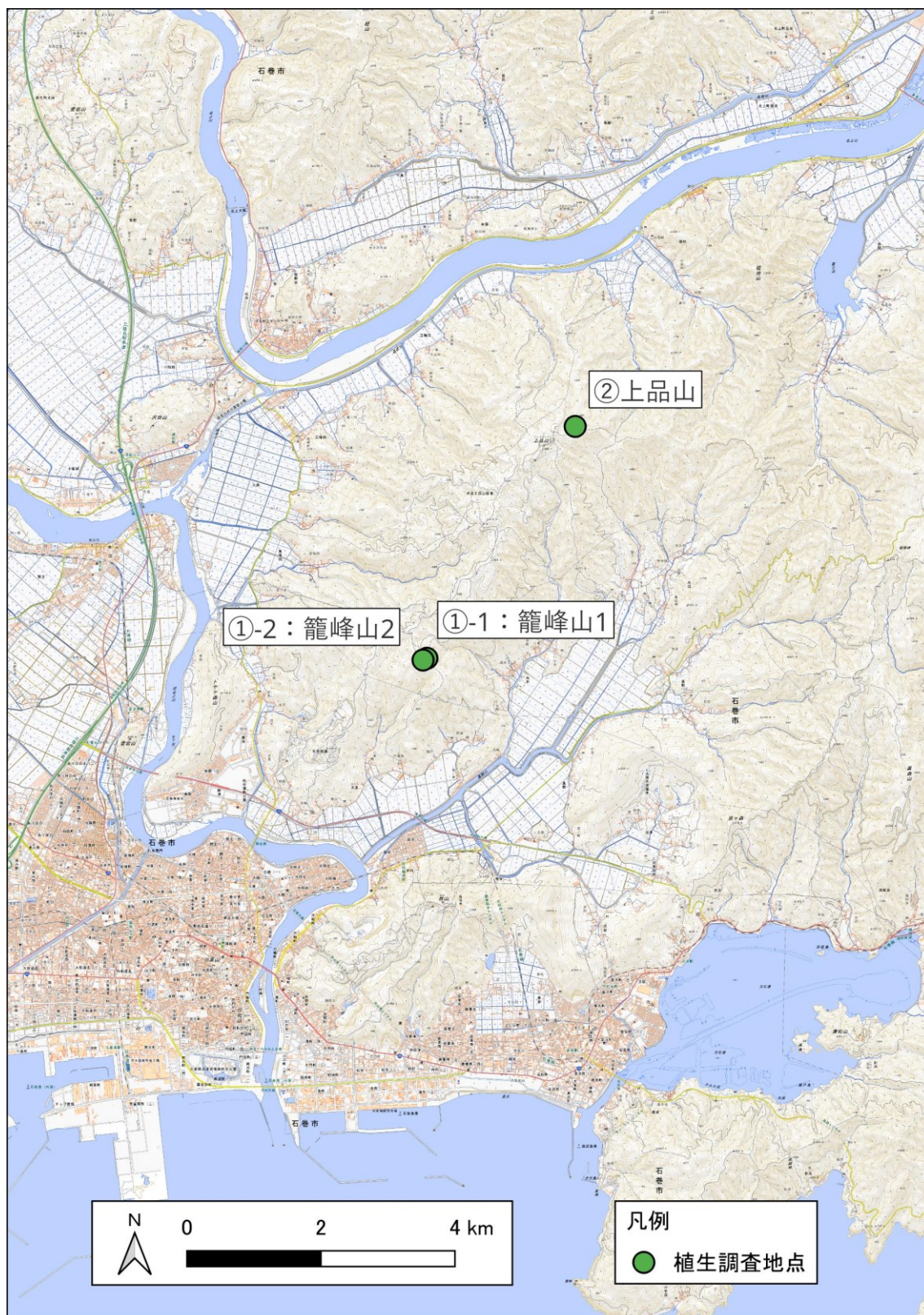


図1 植生調査地点位置図

国土地理院の地理院タイル（標準地図）に調査地点および群落の分布及びスケールバーを追記して掲載¹⁾

3-3 植物相調査

植生調査および植生調査地点外で踏査中に記録された植物種は57科106種であった。重要種は確認できなかった。植栽種を除き、人為的に持ち込まれた帰化種・逸出種は、ムラサキツメクサ、ヘラオオバコ、コセンダングサ、ハルジオン、セイタカアワダチソウの5種であり、特定外来生物は確認できなかった。植物目録は巻末資料表3のとおりである。

3-4 各区域の植生状況について

① 籠峰山

籠峰山は、旧北上川の東側・北上川の南方に位置する標高350mほどの山で、市街地に近い山としては自然が残されている山である。頂上付近は広く切り開かれ草地となっており、その他の箇所はアカマツ群落やクリーコナラ群落が広がっている。

植生調査は、山頂付近の草地帯において調査を行った。(図2)。

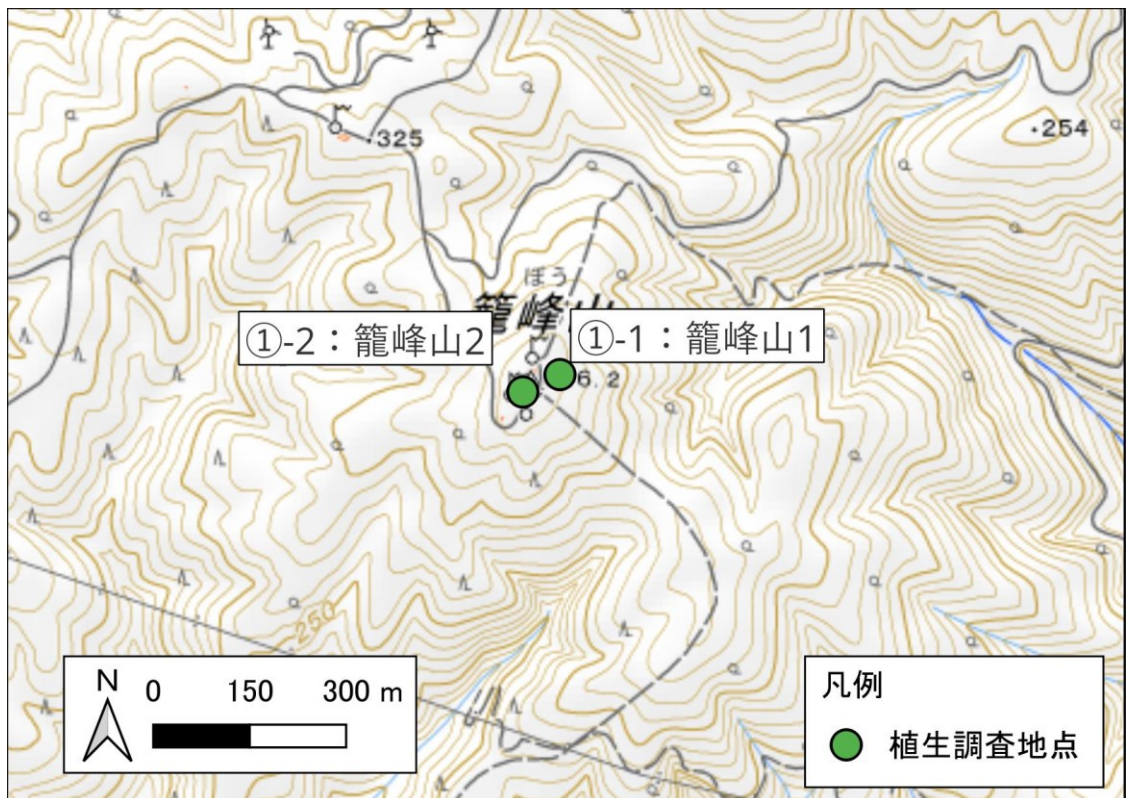


図2 ①籠峰山の植生調査地点

国土地理院の地理院タイル（標準地図）に調査地点および群落の分布及びスケールバーを追記して掲載¹⁾

調査地①-1 は、草丈の低いシバ群落であり、高さ 0.1m ほどの草本類に覆われていた。シバが優占し、他にはアリノトウグサ、オオチドメ、スズメノヒエなどが生育していた。また、草刈りにより、低茎状態で生育するススキも確認でき、草刈りをやめた場合、ススキが成長し、シバ群落を被圧する可能性が考えられる。



シバ群落



アリノトウグサ



ススキ(低茎状態)



ススキと混在するシバ

調査地①-2 は、草丈の高いススキ群落であり、高さ 1～2m ほどの草本類に覆われていた。草丈の高い H1 層はススキが優占し、他にはワラビやセンニンソウなどが生育し、草丈の低い H2 層はオオチドメが優占し、他にはゲンノショウコやネコハギ、セイタカアワダチソウなどが生育していた。



ススキ群落



H2 層:オオチドメ

② 上品山

上品山は、旧北上川の東側・北上川の南方に位置する標高 470m ほどの山で、市街地に近い山としては自然が残されている山である。また、頂上付近には市営河北上品山牧場や国土交通省監視レーダーなどがあり、頂上付近まで車で上がることもできる。

植生調査は、山頂から東へ抜ける尾根上の林道沿いにおいて調査を行った（図 3）。

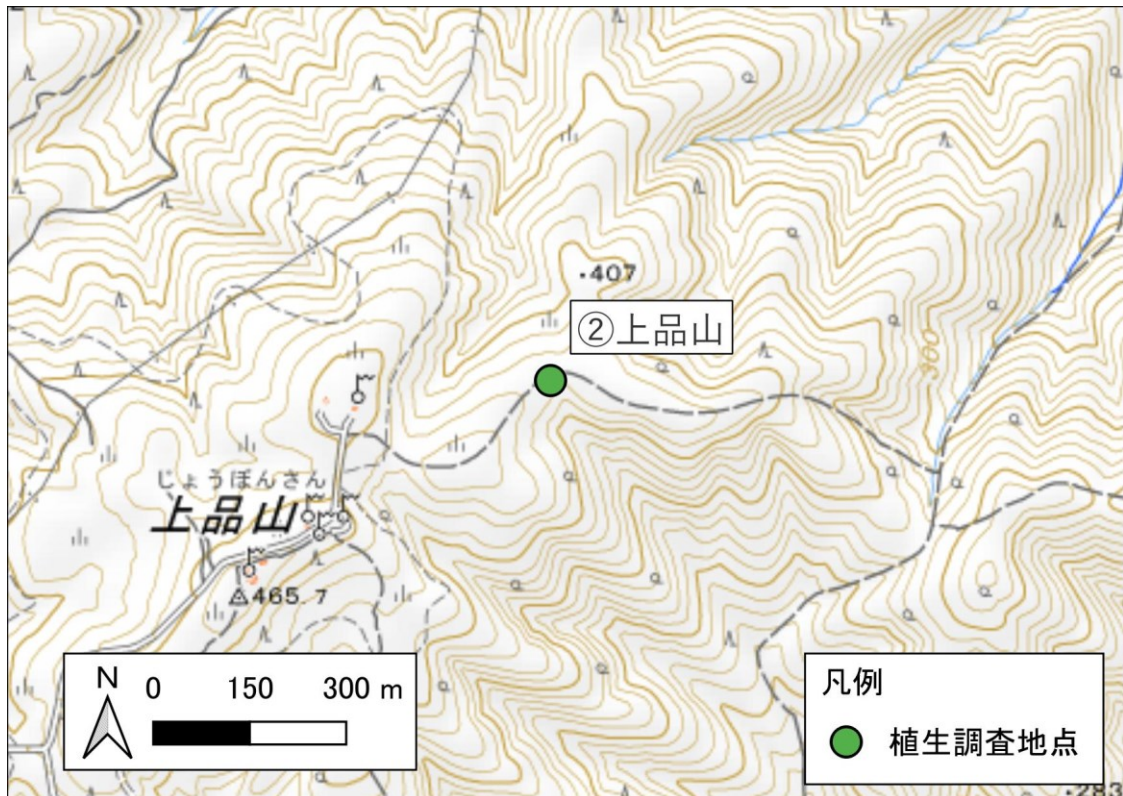


図 3 ②田代島の植生調査地点

国土地理院の地理院タイル（標準地図）に調査地点および群落の分布及びスケールバーを追記して掲載¹⁾

調査地②はアカマツ群落であり、高木層はアカマツが優占し、他にはクリが生育していた。亜高木層はコナラが優占し、他にはマツブサ、ウワミズザクラ、ミズキ、ウリハダカエデ、オオモミジなどが生育していた。低木層はヤマツツジが優占し、他にはガマズミやムラサキシキブ、カマツカなどが生育していた。草本層はコチヂミザサが優占し、他にはタチツボスミレやヤマツツジ、タガネソウ、ミツバツチグリなどが生育していた。シカによる食害の影響か、高さ 0.2m を越える草本は確認できなかった。



アカマツ群落



オオモミジ



ムラサキシキブ



クロモジ

【参考文献】

- 1) 国土地理院情報普及課公式 GitHub 地理院タイルの WMTS メタデータ提供実験
https://github.com/gsi-cyberjapan/experimental_wmts (2024 年 12 月 6 日閲覧)
- 2) 宮城県森林情報提供システム (宮城県、2024 年 12 月 6 日閲覧)
<http://fgis-pref-miyagi.jp/>
- 3) 自然環境調査 Web-GIS (環境省自然環境局、2024 年 12 月 6 日閲覧)
<http://gis.biodic.go.jp/webgis/index.html>

1. 植生調査票

No. ①-1	調査地: 龍峰山1	
地形: 山頂・尾根・斜面(上・中・下)・谷・平地	風による変形: 有・無	天候: 晴
土壌: ボトゾル・褐森・赤・黄・黄褐森・黒 ^ク	日当: 陽・中陰・陰	方位: N70W
グライ・擬グライ・沼沢・沖積・高湿草	土湿: 乾・適・湿・過湿	傾斜: 10°
非固岩屑・固岩屑・水面下・壤土		面積: 2 × 2 m
		出現種数: 13 種

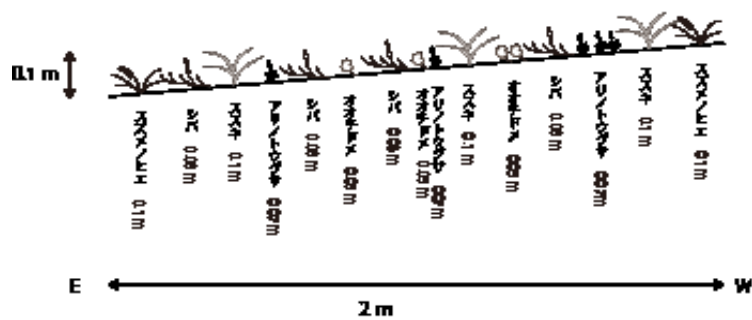
(階層)		(優占種)	(高さ m)	(植被率)	(種数)	(備考)
I	高木層		～	%		
II	亜高木層		～	%		
III	低木層		～	%		
			～			
IV	草本層	シバ	0.0 ～ 0.1	100 %	13	

調査者：及川尚志

[illegible]

12

植生断面図



写真：東方向より西方向へ撮影



図 4 (2) 植生調査票 ①-1

No. ①~2	調査地: 籠峰山2	
地形: 山頂・尾根・斜面(上・中・下)・谷・平地	風による変形: 有・無	天候: 晴
土壌: ホトツグ・褐森・赤・黄・黄褐森・黒ク	日当: 陽・中陰・陰	方位: N70E
グライ・擬グライ・沼沢・沖積・高湿草	土湿: 乾・適・湿・過湿	傾斜: 5°
非固岩屑・固岩屑・水面下・壤土		面積: 3 × 3 m
		出現種数: 11 種

[illegible]

14

植生断面图

2m

禾草 2m

莎草 1m

禾草 2m

苔草 0.1m

禾草 2m

莎草 1m

禾草 2m

莎草 1m

禾草 2m

3m

SW

NE

写真：北方より南方へ撮影

A photograph showing a dense field of tall, golden-brown grasses, likely Japanese Broomrape (Imperata cylindrica), with green foliage and a utility pole visible in the background. The grasses are in the foreground, and the background shows a line of trees and a utility pole under a clear sky.

図 4 (4) 植生調査票 ①-2

No. ②	調査地: 上品山	
地形: 山頂・尾根・斜面(上・中・下)・谷・平地	風による変形: 有・無	天候: 晴
土壌: ホドゾル・褐森・赤・黄・黄褐森・黒ホク	日当: 陽・中陰・陰	方位: N50W
グライ・擬グライ・沼沢・沖積・高湿草	土湿: 乾・適・湿・過湿	傾斜: 10°
非固岩屑・固岩屑・水面下・壤土		面積: 20 × 20 m
		出現種数: 41 種

[illegible]

16

[illegible]

写真：南方より北方へ撮影

A photograph of a dense forest. In the foreground, there is a large, fallen log lying horizontally. The forest is filled with many trees, some with thick trunks and others with thinner ones. The foliage is green, and the ground is covered with brown leaves and twigs. The lighting suggests it is daytime, with sunlight filtering through the trees.

図 4 (6) 植生調査票 ②

2. 植物目録

表 3(1) 現地調査による確認種一覧

ID	綱名	科名	種名	学名	確認場所		帰化逸出
					①上品山	②龍峰山	
1	大葉シダ綱	ハナヤスリ科	フユノハナワラビ	<i>Botrychium ternatum</i> var. <i>ternatum</i>	○		
2	大葉シダ綱	コバノイシカグマ科	ワラビ	<i>Pteridium aquilinum</i> ssp. <i>japonicum</i>		○	
3	大葉シダ綱	ヒメシダ科	ハリガネワラビ	<i>Thelypteris japonica</i>	○		
4	大葉シダ綱	メシダ科	ヘビノネゴザ	<i>Athyrium yokoscense</i>	○		
5	－	マツ科	アカマツ	<i>Pinus densiflora</i>	○	○	
6	－	ヒノキ科	ヒノキ	<i>Chamaecyparis obtusa</i>	○		
7	－	マツブサ科	マツブサ	<i>Schisandra repanda</i>	○		
8	－	センリョウ科	ヒトリシズカ	<i>Chloranthus quadrifolius</i>	○		
9	－	ドクダミ科	ドクダミ	<i>Houttuynia cordata</i>		○	
10	－	モクレン科	コブシ	<i>Magnolia kobus</i>	○		
11	－	モクレン科	ホオノキ	<i>Magnolia obovata</i>	○		
12	－	クスノキ科	クロモジ	<i>Lindera umbellata</i> var. <i>umbellata</i>	○		
13	－	クスノキ科	シロダモ	<i>Neolitsea sericea</i> var. <i>sericea</i>		○	
14	単子葉類	サトイモ科	デンナンショウ 属の一種	<i>Arisaema</i> sp.	○		
15	単子葉類	ヤマノイモ科	ヤマノイモ	<i>Dioscorea japonica</i>		○	
16	単子葉類	ヤマノイモ科	オニドコロ	<i>Dioscorea tokoro</i>	○		
17	単子葉類	サルトリイバラ科	サルトリイバラ	<i>Smilax china</i> var. <i>china</i>	○		
18	単子葉類	ユリ科	ヤマジノホトギス	<i>Tricyrtis affinis</i>	○		
19	単子葉類	カヤツリグサ科	タガネソウ	<i>Carex siderosticta</i>	○		
－	単子葉類	カヤツリグサ科	スゲ属の一種	<i>Carex</i> sp.	○	○	
20	単子葉類	イネ科	トグシバ	<i>Arundinella hirta</i>		○	
21	単子葉類	イネ科	ヤマカモジグサ	<i>Brachypodium sylvaticum</i>	○	○	
22	単子葉類	イネ科	ウシノケグサ	<i>Festuca ovina</i>		○	
23	単子葉類	イネ科	ススキ	<i>Miscanthus sinensis</i>	○	○	
24	単子葉類	イネ科	コチヂミザサ	<i>Oplismenus undulatifolius</i> var. <i>japonicus</i>	○		
25	単子葉類	イネ科	スズメノヒエ	<i>Paspalum thunbergii</i>		○	
26	単子葉類	イネ科	チカラシバ	<i>Pennisetum alopecuroides</i>		○	
27	単子葉類	イネ科	アズマネザサ	<i>Pleioblastus chino</i>	○		
28	単子葉類	イネ科	シバ	<i>Zoysia japonica</i>		○	
29	真正双子葉類	アケビ科	ミツバアケビ	<i>Akebia trifoliata</i> ssp. <i>trifoliata</i>	○		
30	真正双子葉類	ツツラフジ科	アオツツラフジ	<i>Cocculus trilobus</i>		○	
31	真正双子葉類	メギ科	メギ	<i>Berberis thunbergii</i>	○		
32	真正双子葉類	キンボウゲ科	キツネノボタン	<i>Ranunculus silerifolius</i>	○		
33	真正双子葉類	アワブキ科	アワブキ	<i>Meliosma myriantha</i>	○		
34	真正双子葉類	アリハトウグサ科	アリハトウグサ	<i>Gonocarpus micranthus</i>		○	
35	真正双子葉類	マメ科	ヌスビトハギ	<i>Hylodesmum podocarpum</i> ssp. <i>oxyphyllum</i> var. <i>japonicum</i>	○		
36	真正双子葉類	マメ科	コマツナギ	<i>Indigofera pseudotinctoria</i>		○	
37	真正双子葉類	マメ科	ヤハズソウ	<i>Kummerowia striata</i>		○	
38	真正双子葉類	マメ科	メドハギ	<i>Lespedeza cuneata</i> var. <i>cuneata</i>		○	
39	真正双子葉類	マメ科	ネコハギ	<i>Lespedeza pilosa</i> var. <i>pilosa</i>		○	
40	真正双子葉類	マメ科	ムラサキツメクサ	<i>Trifolium pratense</i>		○	帰化
41	真正双子葉類	マメ科	フジ	<i>Wisteria floribunda</i>	○	○	
42	真正双子葉類	クロウメモドキ科	クマヤナギ	<i>Berchemia racemosa</i>		○	
43	真正双子葉類	ニレ科	ケヤキ	<i>Zelkova serrata</i>	○		
44	真正双子葉類	クワ科	ヤマグワ	<i>Morus australis</i>	○	○	
45	真正双子葉類	バラ科	エドヒガナ	<i>Cerasus itosakura</i> f. <i>ascendens</i>	○		
46	真正双子葉類	バラ科	ヤマザクラ	<i>Cerasus jamasakura</i> var. <i>jamasakura</i>	○		
47	真正双子葉類	バラ科	コゴメウツギ	<i>Neillia incisa</i>	○		
48	真正双子葉類	バラ科	ウワミズザクラ	<i>Padus grayana</i>	○		
49	真正双子葉類	バラ科	キジムシロ	<i>Potentilla fringarioides</i>		○	
50	真正双子葉類	バラ科	ミツバツチグリ	<i>Potentilla freyniana</i>	○	○	

表 3(2) 現地調査による確認種一覧

ID	綱名	科名	種名	学名	確認場所		帰化逸出
					①上品山	②龍峰山	
51	真正双子葉類	バラ科	ヘビイチゴ	<i>Potentilla hebiichigo</i>	○	○	
52	真正双子葉類	バラ科	カマツカ	<i>Pourthaea villosa</i> var. <i>laevis</i>	○		
53	真正双子葉類	バラ科	モミジイチゴ	<i>Rubus palmatus</i>		○	
54	真正双子葉類	バラ科	ナワシロイチゴ	<i>Rubus parvifolius</i>		○	
55	真正双子葉類	ブナ科	クリ	<i>Castanea crenata</i>	○	○	
56	真正双子葉類	ブナ科	コナラ	<i>Quercus serrata</i> ssp. <i>serrata</i> var. <i>serrata</i>	○	○	
57	真正双子葉類	カバノキ科	サワシバ	<i>Carpinus cordata</i> var. <i>cordata</i>	○		
58	真正双子葉類	カバノキ科	イヌシデ	<i>Carpinus tschonoskii</i>	○		
59	真正双子葉類	カバノキ科	ツノハシバミ	<i>Corylus sieboldiana</i> var. <i>sieboldiana</i>	○		
60	真正双子葉類	ウリ科	アマチャヅル	<i>Gynostemma pentaphyllum</i> var. <i>pentaphyllum</i>	○		
61	真正双子葉類	ヤナギ科	トカチャナギ	<i>Salix cardiophylla</i>		○	
62	真正双子葉類	スミレ科	タチツボスミレ	<i>Viola grypoceras</i> var. <i>grypoceras</i>	○		
63	真正双子葉類	オトギリソウ科	オトギリソウ	<i>Hypericum erectum</i>	○		
64	真正双子葉類	フウロソウ科	ゲンノショウコ	<i>Geranium thunbergii</i>		○	
65	真正双子葉類	キブシ科	キブシ	<i>Stachyurus praecox</i>	○		
66	真正双子葉類	ムクロジ科	オオモミジ	<i>Acer amoenum</i> var. <i>amoenum</i>	○		
67	真正双子葉類	ムクロジ科	チドリノキ	<i>Acer carpinifolium</i>	○		
68	真正双子葉類	ムクロジ科	ハウチワカエデ	<i>Acer japonicum</i>	○		
69	真正双子葉類	ムクロジ科	ウリハダカエデ	<i>Acer rufinerve</i>	○	○	
70	真正双子葉類	ミカン科	サンショウ	<i>Zanthoxylum piperitum</i>	○		
71	真正双子葉類	タデ科	ハナタデ	<i>Persicaria posumbu</i>	○		
72	真正双子葉類	ミズキ科	ミズキ	<i>Cornus controversa</i> var. <i>controversa</i>	○		
73	真正双子葉類	アジサイ科	ウンギ	<i>Deutzia crenata</i> var. <i>crenata</i>	○		
74	真正双子葉類	サクラソウ科	コナスビ	<i>Lysimachia japonica</i>	○		
75	真正双子葉類	ハイノキ科	サワフタギ	<i>Symplocos sawafutagi</i>	○	○	
76	真正双子葉類	マタタビ科	サルナシ	<i>Actinidia arguta</i> var. <i>arguta</i>		○	
77	真正双子葉類	マタタビ科	マタタビ	<i>Actinidia polygama</i>	○		
78	真正双子葉類	ツツジ科	ハナヒリノキ	<i>Leucothoe grayana</i> var. <i>grayana</i>	○		
79	真正双子葉類	ツツジ科	ヤマツツジ	<i>Rhododendron kaempferi</i> var. <i>kaempferi</i>	○	○	
80	真正双子葉類	アカネ科	ヨツバムグラ	<i>Galium trachyspermum</i>	○		
81	真正双子葉類	アカネ科	アカネ	<i>Rubia argyi</i>	○	○	
82	真正双子葉類	リンドウ科	センブリ	<i>Swertia japonica</i>		○	
83	真正双子葉類	モクセイ科	イボタノキ	<i>Ligustrum obtusifolium</i> ssp. <i>obtusifolium</i>		○	
84	真正双子葉類	オオバコ科	オオバコ	<i>Plantago asiatica</i> var. <i>asiatica</i>	○		
85	真正双子葉類	オオバコ科	ヘラオオバコ	<i>Plantago lanceolata</i>		○	帰化
86	真正双子葉類	シソ科	ムラサキシキブ	<i>Callicarpa japonica</i> var. <i>japonica</i>	○		
87	真正双子葉類	シソ科	イヌトウバナ	<i>Clinopodium micranthum</i> var. <i>micranthum</i>	○		
88	真正双子葉類	ハエドクソウ科	ハエドクソウ	<i>Phryma nana</i>	○		
89	真正双子葉類	モチノキ科	アオハダ	<i>Ilex macropoda</i>	○		
90	真正双子葉類	キク科	キッコウハグマ	<i>Ainsliaea apiculata</i>	○		
91	真正双子葉類	キク科	ノコンギク	<i>Aster microcephalus</i> var. <i>ovatus</i>		○	
92	真正双子葉類	キク科	コセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i> var. <i>pilosa</i>		○	帰化
93	真正双子葉類	キク科	ノハラアザミ	<i>Cirsium oligophyllum</i> var. <i>oligophyllum</i>		○	
94	真正双子葉類	キク科	ハルジオン	<i>Erigeron philadelphicus</i>		○	帰化
95	真正双子葉類	キク科	チチコグサ	<i>Gnaphalium japonicum</i>		○	
96	真正双子葉類	キク科	ニガナ	<i>Ixeridium dentatum</i> ssp. <i>dentatum</i>	○	○	
97	真正双子葉類	キク科	コウゾリナ	<i>Picris hieracioides</i> ssp. <i>japonica</i> var. <i>japonica</i>		○	
98	真正双子葉類	キク科	セイタカアワダチソウ	<i>Solidago altissima</i>		○	帰化
99	真正双子葉類	ウコギ科	オオチドメ	<i>Hydrocotyle ramiflora</i>	○	○	
100	真正双子葉類	ウコギ科	ヒメチドメ	<i>Hydrocotyle yabei</i>	○		

表 3(3) 現地調査による確認種一覧

ID	綱名	科名	種名	学名	確認場所		帰化逸出
					①上品山	②龍峰山	
101	真正双子葉類	セリ科	セントウソウ	<i>Chamaele decumbens</i>	○		
102	真正双子葉類	ガマズミ科	ニワトコ	<i>Sambucus racemosa</i> ssp. <i>sieboldiana</i> var. <i>sieboldiana</i>		○	
103	真正双子葉類	ガマズミ科	ガマズミ	<i>Viburnum dilatatum</i>	○	○	
104	真正双子葉類	ガマズミ科	オオカメノキ	<i>Viburnum furcatum</i>	○		
105	真正双子葉類	スイカズラ科	ヤマウグイスカグラ	<i>Lonicera gracilipes</i> var. <i>gracilipes</i>	○		
106	真正双子葉類	スイカズラ科	スイカズラ	<i>Lonicera japonica</i>	○	○	
-	3綱	57科	106種		72種	52種	5種

- 注：1. 種名及び種の配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省、2024 年）に準拠した。
2. 帰化逸出の区分は以下のとおりである。
- 帰：帰化種（外来種のうち、野生化したのち自然繁殖するなど野外への定着が確認された種）
- 逸：逸出種（栽培している植物が管理下から外れて野生化した結果、国内で生育するようになった種）